

# 福祉最前線

— 現場レポート —



公益社団法人日本てんかん協会 神奈川県支部  
代表 青柳 智夫

1977(昭和52)年5月21日設立、会員数約300名(毎月変動)。  
(連絡先) 〒222-0035 横浜市港北区烏山町1752  
横浜ラポール3 F 団体交流室  
☎045-475-2360 FAX 045-548-4836  
URL <http://www.005.upp.so-net.ne.jp/nami/>

◎このコーナーでは県内各地の福祉関連の当事者・職能団体等の方々から日ごろの取り組みをご寄稿いただきます。

## 公益社団法人日本てんかん協会 神奈川県支部の魂—総合対策の充実を目指して

日本てんかん協会は、1976(昭和51)年に発足して以来、てんかんに悩む当事者、家族と専門医、関連専門職の方々が一体となって、「てんかん運動」に取り組んできました。

毎年取り組んでいる国会請願署名においては、てんかんに関する問題があらゆる角度から改善するように要請、今年6月には衆参130名を超える国会議員の協力を得て、提出することができました。

神奈川県支部は本部ができた翌年の1977(昭和52)年に発足し、医療、教育、福祉、雇用・就労の充実に向けて、取り組んできました。てんかん懇話会の先生方をお願いして、年間数回の医療講演会、福祉、教育、雇用・就労に関連した講演会、神奈川県や横浜市への要望、さらには、てんかん協会関係者による作業所・施設・事業所の設立協力なども行ってきました。

近年は、県社会福祉協議会、専門医・学識経験者の協力を得て、てんかんと雇用に関する調査を広域に行い、さまざまな発作形態、重複障がいのあるてんかんの方々が、どのような配慮を得て、どういった職務内容であれば就職・雇用継続ができるか、などの分析を実施することができました。

また、聖マリアンナ医科大学に設置の「てんかんセンター」を中心に、国と県が共同で実施している「てんかん医療・社会連携協議会」の一員として県支部の役員2名が出席し、てんかんの包括的医療、福

祉の充実に向けて活動できるようになりました。

しかしながら、このような、てんかんに重点化した医療・福祉の施策が登場したのはほんの数年前です。私自身35年間、障がいのある方々の就労支援・相談支援の職務をいくつかの法人で取り組んできましたが、「てんかんのことはよくわかりません」「重複した疾患・障がいですね」「薬を飲んでいればいいけど、飲み忘れて発作が起きるのが問題ですね」「薬が多すぎると副作用の眠気で仕事の能率が落ちますね」など、否定的なコメントや表面的な理解のみで話される方ばかり多いのが現実でした。

身体のださまざまな部位に発生する多様な発作、友人知人に発作を目撃されてしまった時の落胆、発作と関連症状に伴う言いようのない不安など。悩みの本質が理解されない現実の中で、悩みの蓄積ばかりが目立つ日々でした。

長いトンネルの時代を超え、今、ようやく、てんかんの多様な症状、悩みに着目され、少しずつ、生きやすさの指針が作られつつあります。

県支部と世話人は毎月の啓発誌「波」の発送、講演会等各種行事、相談の実践により、魂込めて、てんかんの総合対策の充実を目指しています。ご支援、ご協力をお願いします。



「波」7月号表紙

機械・雑踏警備のほか防犯カメラや新型【AED】も取扱っています。小型GPS機能による位置情報確認サービス「おまもりくん」の取扱いも開始しました。

京浜警備保障(株)



代表取締役社長 岡本 誠一郎  
本社 〒221-0045 横浜市神奈川区神奈川2-8-8 第一川島ビル

☎(045)461-0101 代表 FAX(045)441-1528

一般社団法人

### 神奈川県福祉研究会

福祉施設経営相談室 税務・会計の専門相談員

理事 伊藤 正孝(☎045-412-2110)

同 辻村 祥造(☎045-311-5162)

同 西迫 一郎(☎046-221-1328)

代表理事 八木 時雄(☎042-773-9266)

あなたの情報発信のお手伝い  
デザイン・印刷・ホームページ制作



KKI 株式会社 神奈川機関紙印刷所

〒238-0004 横浜市金沢区福浦2-1-12  
営業部 TEL045(785)1700(代) FAX045(784)8902  
制作部 TEL045(785)1788 FAX045(780)1598  
<http://www.kki.co.jp/>